

ソルフエージ ステージ スクール

春夏号

2015年10月10日発行

編集責任者 古澤裕治

豊島区目白4-23-10

Tel 03-3953-8517

ソルフエージスクール

ソルフエージスクールで学べること

古澤裕治

聴いて楽しむにしても演奏するにしても音楽では耳が大きな役割を担っています。楽器を始めても楽譜を読むことをしないで耳で憶えた音を演奏していると、確かな読譜力を必要とする曲やアンサンブルの譜面を前に挫折する例は少なくありません。

スクールでは始めから理屈としてではなく楽しく楽譜に馴染めるようなレッスンをしています。子供たちは音符をスクールオリジナルの家や木の絵とともに画いたり、リズムのカードを手にするなどで楽譜に親しんでいきます。実際の音符の長さはピアノに合わせて体を動かすリトミックで2拍子、3拍子、4拍子などの拍子の感覚と共に体得していきます。

この拍子を構成するのは拍であり、これは音楽に内在する脈拍です。リズムというものも拍があつてこそ意味をなします。拍の感じられない演奏は旋

律の進行に流されているだけであり自発性に欠けるものでしょう。

拍を常に意識できるようにするため、に体で実感するリトミックがあり、歌うことではソルフエージのレッスンをあります。教本を歌う際には手で拍をとりながら歌うことが必須です。

拍を心中で感じながら譜面に書かれた音符とリズムを楽器や声で表わせるようになったところから音楽の上での自立した歩みが始まることとなります。

演奏技術の習得のために多くの時間が費やされがちですが、演奏に必要なとされる基本的で重要な要素は拍であることを深く認識した教育が広まることを望まれます。

.....

【ソルフエージスクール演奏会】

六月二十一日、今年も日本橋公会堂で後援会主催によるソルフエージスクール演奏会が開かれました。この演奏会は当スクールが重視しているアンサンブルの体験を、子供から大人まで一緒に楽しみ発表する機会です。

小学生の連弾はテンポの変化や音の強弱を見事に、高校生と大人のペアはフランス音楽を色彩豊かに披露してくれました。室内楽は三組登場。学年違いのチェロとヴァイオリンのデュオはミュージックキャンプで意気投合し、練習を重ね堂々とした演奏でした。兄妹のデュオは約束をしないで息が合い、音色も豊か。大人のクアルテットは、先生も参加し端正なベートーヴェンを届けてくれました。生徒と先生が一緒に演奏することも大切な体験です。リトミック&うたでは、ハーモニー(和音)に挑戦し、音を重ねる気持ち良さを学び、賛美歌を二声で歌いました。フランス語で歌ったカノンでは振り付きで見せる工夫をし、しつかりできました。



ピアノ連弾

器楽合奏は「大きな古時計」。みんな大好きな曲ですが、ジャズっぽくアレ

♪ソルフエージスクール演奏会 プログラム♪

| | |
|-------|--|
| ピアノ連弾 | A 夜の静けさの中で、山賊の踊り (ヤニナ・ガルシチャ) |
| | B 「ドリー」より (フォーレ) |
| 室内楽 | A メヌエット (ハイドン) |
| | B アレグロ、メヌエット (モーツァルト) |
| | C 弦楽四重奏曲 第七番 Op.59-1 へ長調 (ベートーヴェン) 第一楽章 Allegro |
| リトミック | リトミック |
| うた | フレールジャック (フランスの子どもの歌) |
| | 空の鳥は (ミュラー) |
| 器楽合奏 | 大きな古時計 (ワーク) |
| 弦楽合奏 | 「糸杉」より (ドヴォルザーク) |
| 合唱 | 「キャロルの祭典」より (プリテン) |

ンジされている箇所もあり、リズムの変化で音楽の色が変わることを楽しみながら練習を重ね、素敵な合奏となりました。

日曜日の室内楽クラスによる弦楽合奏では、なかなか聴く機会の少ないドヴォルザークの作品を聴かせてくれました。創設された先生方が力を入れていらした、当スクールでも長きに渡って活動しているクラスです。年々子供達も真剣に聴いてくれています。音楽を細々でも続けていくことで、他の仕事をしても豊かな音楽生活を送ることができていることを体現してくれています。

最後は恒例の合唱。プリテンの「キヤロルの祭典」を皆で歌いました。速いカノンで作られている楽曲をソルフエージ読みで沢山練習し、英語で歌っても崩れることなく見事に歌い上げました。良い音楽は子供でも理解でき表現できます。当スクールではこれからも本物を伝えていけるよう努力いたします。

最後になりましたが、保護者の皆様にはリハーサルから当日までご協力いただき、心から感謝申し上げます。

【夏季合宿】

本年は八月七日から三泊四日の日程で催されました。合宿の地は長年慣れ親しんだ軽井沢を離れ、長野県白馬村の森に囲まれた静かな環境にあるペンションあぜくら山荘でした。

受講生は十五名（フルート4、ヴァイオリン5、ヴィオラ2、チェロ3、声楽1）。年代別では中学生二名、高校生二名、大学生四名、社会人七名。

特別講師として今年もアメリカから亀井由紀子先生を迎え講師は全八名。

あぜくら山荘は音楽のための施設ではありませんが食堂、宿泊部屋などで合奏と室内楽、個人練習をすることができ講習のスケジュールは予定通り進みました。

山荘では練習がし易いように配慮がなされ、また毎回おいしい食事がいただけたのは嬉しいことでした。

最終日の午前中には食堂で発表コンサートが受講生のご家族など数組のお客様の前に開かれましたが、合宿中の亀井先生の濃密なレッスンはじめ各講師の熱心な指導に受講生も応えた様子がよく分かる演奏はアンサンブルへの集中力が感じられるものでした。

これまでの軽井沢ハーモニーハウスの大きな違いは自分たちで食事の用意や片付けや掃除をする必要がないことでした。この様な音楽以外の生活に伴う仕事での触れ合いや共同作業はお互いの間に一層の親密さと一体感を生じさせ、音楽をする上にも大きな効果をもたらしていたと云えます。このソルフエージスクール独特な合宿形態が続けられないのは惜しまれますが、その分増える音楽を練習する時間を有効に活用するようにしたいものです。

《初めてのアンサンブル体験》

高校生 佐藤 理子

今回初参加させていただきましたが、とても楽しく有意義な時間を過ごすことができました。普段はオーケストラ部での活動しかしていないため、今回のようなアンサンブルはなかなか体験できないので、おもしろかったです。

す。また、フルートだけでなく弦楽器のアンサンブルを聴くこともできました。楽器に関係なくみんなで作るリコーダーアンサンブルも楽しかったです。

《音楽に集中》

白井 正枝

バイオリンのことだけを考えて過ごせる四日間で、とても充実していました。いろいろな先生や仲間と意見交換もできて、楽しみながらとてもよい勉強をさせて頂きました。通いレッスンでは得難い内容の濃い時間でした。



アンサンブルの様子

【大人のための基礎音楽入門講座】

音楽の基礎を学ぶための成人向け講座の二回目が五月から七月にかけて開かれました。前回に引き続き初級編。身体を通して「拍の大切さ」「楽譜を自

らの力で音楽にする」そして「音楽は敷居の高いものではなく、歩くことや生活の中にあるのだ」と、気付いていただくことを目標に、毎週水曜日の午前中に集まりました。今回は男性2名の受講者とともに、ホールで身体をほぐし、「まーるーちゃーん」と大きな声を出しながら歩き（当スクールではおなじみですね）、身体で表現することの難しさを体感しました。教室では拍をうちながら音名で歌い、「知っている歌もきちんと楽譜を見て歌うことで、丁寧な心を入れて歌うことができました。これは新鮮な驚きです！」と、笑顔で語ってくださったことがとても印象的でした。

《大人のための音楽基礎に参加して》

大村 新一郎

三人の先生による、すごい授業でした。ほんとうに、基礎の基礎を、一からやっていたいただきました。

「ソルフエージ」というから「音をとる」のかと思ったら、案に相違して、十回の授業の最初から最後まで、「拍を

とる」ことだったのには、びつくりしました。音楽にとって、この「拍」がとても大事なことを知りました。音楽は絵画などとは違って純粹に時間のもの、拍がないときちゃんと進行しないから、拍は決定的に大事なですね。

「拍の裏」ということは、実は、これまであまり意識していませんでした。そのために、ちよつとややこしくなる、「計算が合わなく」なって、合唱のパートの歌いだしに入れなくなったり、はみ出したり、混乱していましたが、これで頭の中は（頭のなかだけ）、かなり整理されたような気がします。

拍をとるのは、小さいお子さんがすぐ覚えることでも、年を取ると、残念ながら覚えが悪く、頭では理解しても、体が自然に動くまでには、時間がかかります。この体で覚えるのがとても大切なので、まあ、努力すれば、少しはマシになるだろうか、と思っているのですが、少なくとも、楽譜をあれこれ眺めて、ということにはなるように思っています。

とにかく、思いがけず「童心にかえって」楽しい時間でした。少ない生徒に情熱を傾けて教えてくださった先生方に、とても感謝します。

うまく時間がとれれば、音をとるであらう「続編」に参加したいな、と思っています。

《心地よい時間》

小滝孝保

何十年と通るたびに少し気になってきたピンクの建物。やつと中に入る事が出来ました。先日通りがかったら大人のための基礎音楽入門というパンフレットが置いてあるのに目が止まりました。三十m程自転車で行き過ぎた後戻り、パンフを手に取り、持つて帰りました。思えば小学校、中学校を通じて音楽の授業はほぼ無視していた、とんでもない生徒でしたので社会人になってカラオケをするようになってオタマジヤクシその他譜面の内容がまったく解らずに歌っていました。パンフを見て今の自分にこの講座はぴったりだと思い即刻申し込んだ次第です。結果、拍というものが音楽を学ぶ上で一番大事なものであることを教えていただき、あつという間に終了しましたが作曲などもできそうだと勘違いするほど私にとっては楽しい授業でした。音楽を知らない私に拍の大事さをわかってほしいという先生方の情熱がひしひしと伝わりましたし、さらにやさしく接していただき、まるで小学生に戻ったような不思議な気分になりました。何とも心地よい時間でした。本当に有難うございました。



【春のミュージックキャンプ】

四月四日、五日、スクールにおいて開かれました。参加者は、リコーダー、クラリネット各一名、ヴァイオリン四名、ヴィオラ一名、チェロ二名、ピアノ二名、歌五名。

今回は器楽と歌の両方で参加された方々がいて華やかな会となりました。先生方と一緒に演奏して、アンサンブルの勉強をして、二日間でも成長した姿を発表会でご家族の方々に披露しました。

なかなかレッスンだけでは体験できない様な曲や楽器と人の組み合わせでも楽しい二日間でした。

講師 妹尾美紀子

《アンサンブルを楽しむ》

小学三年生 金井遥香

わたしは、はじめてミュージックキャンプに、さんかしました。はじめはどきどきしましたが、みんながやさしくしてくれたので、楽しい二日間でした。

キャンプでは、チェロの小学生とひいて楽しかったです。二曲目は、バイオリンとヴィオラの三じゅうそうをしました。きんちようしたけれど上手にひいてほめてもらってうれしかったです。

おべんとうもおいしく食べられました。

た。みんなと食べたのでおいしかったです。また、こんどもさんかしたいです。

《アンサンブルの心得を学ぶ》

柳厚子

四月四日、五日に春のミュージックキャンプが行われピアノで参加させていただきました。小学生から大人まで幅広い年代の方々とアンサンブルを楽しみます。

ピアノカルテットでは、ピアノ、チェロ、ピアノ、各楽器の先生方より曲の背景と解釈、他の楽器の音を良く聴くこと、フレージング、伴奏パートではメロディーの歌い易いように如何に弾くか、等々多くの事を教えていただきました。初見演奏や全員合奏もバイオリン、リコーダーなどの音を聴きながら弾くことの大切さを改めて感じます。

二日目は朝から楽器の音が聴こえます。午後に行われる発表会へ向けて空いた時間も練習をいたします。そして迎えた発表会では、ピアノ連弾、ピアノカルテット、バイオリンとピアノなど色々な形のアンサンブルが演奏されました。発表会も無事に終了した後の閉会式は、和やかで充実感の溢れるものでした。

先生方、ご一緒して下さった皆様ありがとうございました。

【夏の初見大会】

夏の初見大会は七月二十日（海の日）に開催されました。

参加は十三名。クラリネット1、ヴァイオリン8、ヴィオラ2、チェロ1、ピアノ4。内三人はヴァイオリンとピアノなど二つ以上の楽器で受講しました。

十時から三時まで昼食を挟んだ四コマの中で二重奏、三重奏、四重奏、全員による合奏など様々な形態での初見演奏を楽しく体験しました。

《初見大会の感想》

小学6年生 堀山耕太郎

七月に今回で五回目になる初見大会に参加しました。初めて初見大会でヴァイオリンをひいたときはいっしょに演奏する人と合わせるのが難しく大変だったけれど、だんだんすっかりひけるようになって楽しくなってきました。初見大会で一番うれしいことはみんなときれいに合奏できたときです。

今回お母さんは「まだ下手だから・・・」と行って参加しませんでした。来年はもっと上手になって妹の実穂と家族三人で参加できるいいなと思っています。



【亀井由紀子先生公開レッスン】

八月六日（木）にソルフェージュスクール出身で現在アメリカのロサンジェル立交響楽団在籍のヴァイオリニスト、亀井由紀子さんによる公開レッスンがソルフェージュスクールで開かれました。亀井さんは二〇世紀の巨匠ヤツシャ・ハイフェッツ氏に師事し、長年アシスタントも務められました。今回はヴァイオリン二名、ピアノ、ヴァイオリン、ヴィオラのトリオの三組が受講し、沢山の聴講生の皆さんとともに亀井さんの音色の素晴らしさや、音楽を愛する心に触れました。大変お忙しいスケジュールの中、今年も私たちに豊かな時間を届けてくださいました。私達は亀井さんのような先輩がいてくださることを誇りに思います。受講した小学三年生の加藤結さん（当スクール生徒）に感想を寄せてもらいました。

《亀井先生のレッスン》

小学三年生 加藤結

亀井先生のレッスンは二日目、一日目と二日目では、教えてもらったことがぜんぜんちがいました。亀井先生は、ひき方などを教えてくれる時のせつ明が分かりやすく、見本もひいてくれるので、とってもりかいしやすいです。亀井先生のレッスンをうけると、とっても上手になります。

亀井先生に教えてもらったことは、

後でとってもやくにたちました。亀井先生は、楽しく、分かりやすく教えてくれるので、自分でも教えてもらったことが全部できると、とっても上手になった気がしました。

わたしは、亀井先生のレッスンをまたうけようと思います。なぜかという、亀井先生のレッスンは、楽しくて、分かりやすく、そして、すぐに正しい演奏ができるからです。

亀井先生のレッスンはすばらしいので、みなさんもうけてみるといいと思います。

【春のコンサート】

先生方による春のコンサートは四月二十九日に本校の三階ホールで開催されました。フルート、クラリネット、弦楽、ピアノによるいろいろな組み合わせのアンサンブルをお楽しみいただきました。

♪春のコンサート プログラム♪

合奏協奏曲集「調和の靈感」より
（ヴィヴァルディ）
幻想小曲集（ガーデ）
セレナーデ（ベートーヴェン）
「思い出」作品28より2曲
（バーバー）
オブリヴィオン（ピアソラ）
リベルタンゴ（ピアソラ）

（二〇一四年度 皆勤賞・精勤賞）

中学生までを対象に、一年を通してソルフェージュ科のレッスンを休まずに出席した生徒に皆勤賞、一日だけ休んだ生徒に精勤賞が贈られます。

該当者は次の十名の皆さんです。おめでとうございませう！

〈皆勤賞〉

石川湧

白井木香

堀山耕太郎

堀山実穂

和栗太佑

〈精勤賞〉

岩岡薫

久島若李

鈴木那雲

田中智晴

山根果也

皆さんには可愛いファイルが贈られました。レッスンを休まず積み重ねることで、音楽がよりわかるようになります。皆さん、頑張りましょうね。

♪ お知らせ ♪

12月20日（日）、ソルフェージュスクール3Fホールにて、クリスマスコンサートが開かれます。ぜひお越し下さい♪

コンチェルトグロッソ Op.6-7（ヘンデル）
ピアノトリオ K.V.502（モーツァルト）
アダージョとアレグロ Op.70（シューマン）
クリスマスメドレー
The Blue Bird（スタンフォード） ほか